

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	兵庫県	市町村名		大学名	
派遣日	令和 3 年 12 月 7 日 ( 火 曜日) 14:00~16:10 14:00~14:05 開会 14:05~15:50 講義 (間に10分休憩) 15:50~16:05 質疑 16:05~16:10 閉会				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">派遣</span> / 遠隔				
派遣場所	兵庫県立のじぎく会館3階大ホール				
アドバイザー氏名	東京都立町田高等学校定時制課程 主任教諭 角田 仁				
相談者	兵庫県教育委員会事務局人権教育課				
相談内容	<p>【日本語指導者養成研修会の講師として講義依頼】</p> <p>県内の学校の中には、初めて外国人児童生徒等を受入れた学校や、在籍してはいるが、適切な日本語指導が行われていない学校なども多く見られ、教員の理解や指導力に課題が見られる。また、高校に進学したが、日本語指導や母語支援などが不十分なため、学校の授業についていけない外国人生徒等も見られる。</p> <p>そこで、今回は特に高校に焦点を当て、「高等学校における日本語指導、多文化共生教育の取組について」と題し、高校における日本語指導が必要な外国人生徒等の受入れ体制及び指導体制の構築（取り出し授業など）、保護者や地域との連携、学校現場での実践事例の紹介などの講義をお願いした。</p> <p>あわせて、小中学校での取組が、どのように高校の指導につながるか、東京都の実践事例をもとに紹介していただくようお願いした。</p>				
派遣者からの指導助言内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外国にルーツを持つ児童生徒の、義務教育終了後の進路の現状</li><li>・ 入試の壁と中退の実態</li><li>・ 様々な組織との連携の重要性</li><li>・ 2年後に迫った「特別の教育課程」と、個別の指導計画について</li><li>・ 学校での多文化共生教育の実践事例</li></ul> 上記内容について、様々なデータに基づき説明していただいた。				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	研修中、様々な校種の先生が、高校での日本語指導や入学までの指導・支援の重要性を感じていた。高校における「特別の教育課程」導入に向け、多くの先生方が個別の指導計画や受入れ体制の構築などについても重要性を感じてもらえたことは大きな成果であった。今後も、県内における日本語指導を充実させるため、引き続き高校を対象とした研修を計画していく。				